

# 坂口 憲一郎情報

No70

(2022年10月27日配信)

NHK ラジオ深夜便 「明日へのことば」 11月3日(木) 4時台

## 「日本文化の華・唱歌を伝えたい」

出演 長野 安恒 声楽家

聞き手 坂口 憲一郎



長野安恒さんは、1990年、ウィーンでの6年間のオペラ生活から日本に戻り、日本の唱歌の文化的価値の高さに気づく。音楽文化の多様化とともに、唱歌が忘れ去られてしまうのではないかと、何とか唱歌を守りたいという思いを強くする。きっかけは、旧制高校寮歌祭の指導を頼まれたこと。寮歌の基をたどると唱歌にあった。

明治15年(1882)から明治17年まで、日本初の西洋式楽譜付き小学唱歌集が、文部省から出版された。外国曲の旋律に、当代一流の国語学者や音楽家が知恵を寄せ合い、古来の万葉の和歌などからも言葉を選び歌詞をつけたという。「蛍」(蛍の光で知られる)「あふげば尊し」など、日本の歌であるかのように親しまれた歌もあれば、「故郷」や「紅葉」のように日本人だけで作った歌もあり、唱歌は、

諸外国から学び、発展させた文化と言える。明治後半から中学生唱歌として、国威発揚の乃木大将を歌った「老將軍」などがある一方、「平和」というものもあり、「平和、平和、たふとしや 世界やこの世のまことの姿」と歌っている。「我は海の子」「蟲のこえ」「冬景色」、、、まさに、一幅の絵を見るように風景や思い出を沸き立たせる。

オペラ歌手長野安恒さんに、日本文化の華、美しい日本語で、日本の四季、自然を歌い込んだ唱歌についての思いを、ウィーンでのオペラ人生の足取りとともに語っていただく。